
ゆみちゃん

トレッドミル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゆみちゃん

【Nコード】

N3489J

【作者名】

トレッドミル

【あらすじ】

私の体験談です。毎年、この時期になると思い出します。

強さとは、こういうことを言うのではないのでしょうか。

私はまだ、強い人間にはなれないようです。

愛するということはこういうことをいうのではないのでしょうか。

私はまだ、人を愛していないようです。

（前書き）

うまく文章にできませんでした。感情ばかりが先走り、言葉をうまく選ぶことができたような気はしません。しかし、この話は少しでも多くの人に伝えたいです。

あれはどれくらい前だろうか…

俺の母親の親友、ゆみちゃんという方がいました

俺が小学生のときは、よく遊んでいたかったです

ゆみちゃんの結婚式では、花束贈呈しました

あまり小さいころの記憶なんてないけれど、なんか覚えてます

さすがに俺が中学に入ると会う機会もなく、たまに母が口にするその名前に、少し懐かしく思っていました

母も何かと忙しくなり、あまり会ってはいないようでした

ある日、家に帰ると、母は慌ただしく出かける準備をしていました
どうしたのかと訊くと、帰ったら話すと言ったまま出て行きました
とりあえず、勝手に飯を食って、風呂入って、ぼーっとテレビを見てると

母が帰ってきました

改めて訊くと、母は憔悴しきった様子で

「ゆみちゃんっていたでしょ？あんた覚えてる？」

「ああ、うん。どうしたの？」

「そのゆみちゃんがね、バス停で待ってる時に急に倒れたらしくて、救急車で病院に運ばれたんだって」

「…そう」

「それで、かわのくん（ゆみちゃんの夫）から電話がかかってきて、病院に行ってきたってわけ」

「うん。で…どうだったの？」

母の表情が曇った瞬間、質問したことを後悔した

「脳内出血を起こしてて、脳の半分くらいが壊死しちゃってるんだって」

「でも、半分は生きてるんでしょ？なら、助からないの？」

「今のところは生きてるけど…」

高校生ともなれば、どういふことかは分かっていた

植物人間ということなのだろう

ゆみちゃんには、当時、小学校中学年の子と幼稚園の子がいた

その子たちは、自分の母親の寝ている姿を見て、頻りに「ママはどうしてずっと寝てるの?」とかわのくんに訊いていたという

それに「ママはね、ちょっと疲れてるんだよ」と涙を堪えて答えていたという

その2日後

ゆみちゃんは息を引き取った

その2日間、ゆみちゃんは一度も目を覚ますことはなかった

友達や子供や夫に、最期の言葉を伝えることすら出来なかったのです

残酷だと思います

何も話せなかった

けれど、きつと頑張っていたと思う

だって、脳が半分死んでるのに、体は2日間以上生きてたんですよ

すごいと思います

本当にすごいと思います

小学生の子はどことなく分かっていたようなのですが、幼稚園の子は「ママはいつ帰ってくるの？」と思っていたようにかわのくんに訊いていたそうです

あの子たちも、もう大きくなっているんだろうな

（後書き）

この場を借りて、改めてゆみちゃんにご冥福をお祈りいたします。
僕もあなたのように人を愛せるようになりたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3489j/>

ゆみちゃん

2010年10月28日07時18分発行